

就職活動を目前にしている3年次生へ 林 茂就職指導委員長(法学部教授)からのメッセージ

「就職する」といっても、働きがいのある仕事でなければ長続きするはずがありません。この際、諸君はこれまでの人生を振り返り、自分がどのような人間なのか、大学生活でどれほど成長したのか、何が出来るのか、そして、これから何をしたいのかということについて「答え」をもって就職活動に臨むべきです。徹底的な自己分析が必要なのです。就職活動に奇策はありません。就職部の各種の支援プログラムに積極的に参加し、相談窓口を遠慮なく叩いてください。OB・OGの情報はきっと役に立つはずです。また、両親や家族とのコミュニケーションを心がけてください。無上の励ましが与えられるに違いないからです。粘り強い活動で、どうか思いを遂げてください。

就職支援プログラム本格スタート ～夢の実現に向けて～



05年(平17)3月卒業予定者対象の就職支援プログラムが9月22日の経済学部対象のガイダンスからいよいよスタートした。=写真

今月中旬からは、4年次生の体験報告を始め、就職活動に不可欠な事項である自己分析・筆記試験対策・仕事研究・業界研究の「基礎講座」が行われる。その後、エントリーシートの書き方や面接対応の基本を学ぶ「応用講座」、来

年1月末の第2回ガイダンス、総合就職合宿研修会へと続く(別表は講座の例。詳細は就職手帳別冊で確認を)。また、本年度は女子学生を対象に「企業で女性が活躍できる条件」・「キャリア開発と職業選択」をテーマに講座が行われる。その他にも模擬面接やマスコミ講座など、さまざまなプログラムが用意されているので積極的な参加を心掛けてほしい。

なお、学生は生田・神田の区別なく出席することが出来る。

※インターネット就職試験対策サービスが10月1日から始まりました。利用希望者は就職課内の端末から登録を。

●企業研究講座「人事採用担当者に聞け！」シリーズ

人事採用担当者が来校して「企業情報・採用情報」を講演してくれます。企業研究をする上で情報収集の絶好の機会です。

日程 11月17日(月)～28日(金)の9日間(土・日・祝日除く)

場所 生田キャンパス

(実施企業、教室等詳細はホームページまたは後日送付されるダイレクトメールで確認を)

参考 昨年の実施企業

明治製菓(株)、(株)高島屋、ソニー(株)、(株)読売新聞社など全52社

●OB・OG相談会「聞いて、話して、交流しよう！」シリーズ

「働く」ということへの意欲向上と「仕事」に対する理解を深める企画。OB・OGが各職場の雰囲気や業界の現状など新鮮な情報を携えて来校してくれます。

日程 12月13日(土) 13時45分 スタート

場所 神田キャンパス 303号教室ほかゼミ室

○学生就職アドバイザーが応援してくれます！

希望の就職を叶えた4年次生たちが皆さんをサポート。親身な助言、臨場感あふれる体験談が不安を解消してくれます。

日程 10月6日(月)～12月19日(金)

時間 月曜日～金曜日/14時30分～16時30分

場所 神田・生田就職課

希望者は就職課窓口に申し出てください。

先輩からのアドバイス 就職活動体験記

■新田和典(経営・石崎徹ゼミ・専大附属高)

自分の“目”と“耳”で確かめる

「お金のために就職しよう」「ホントに行きたい会社があって、自分を成長させたいから」など、『就職する』ということにはいろいろな考えがあると思います。

私の場合、自己実現をするためにどうしても行きたい会社がありました。2年次のころから始めた企業研究や幾度にもわたる社員訪問。自分がそう動いている事で安心感を得ていたという事もあり、他社の選考を受けていても気が入らなかったという事実もあります。自分自身を突き詰めるために自己PRや志望動機などを何度も知り合いに見てもらい、神田校舎の就職課に通いつめ、時に優しく、時に厳しく突き詰めていただきました。

「何事にも向かっていく。そして中途半端に終わらせないで出来ることは必ずやってみる事」をモットーに、自ら足を運び自分の目と耳で確かめてきた私の就職活動は初志貫徹、納得して活動を終えることが出来ました。

これから就職活動を迎える皆さんは、このような体験記をただ読むだけでなく、実際に経験している人に会って対話をする事がこれから先、自分自身の価値観・人脈などに、何らかの形で強みになるのではないかと思います。

選考を受けた会社は十数社でしたが、就職活動を通じてたくさんの人に出会いましたし、自分とかかわる全ての人に支えられて来ました。「お前のことは認めない」といつも言う友人がいますが、彼のような存在がいたからこそ、ヘコたれずに乗り越えられた就職活動でした。

■伊藤瑠美(国際経済・望月宏ゼミ・富山南高)

面接を上手に活用する

「内定を取ることが“目的”ではない」活動をスタートさせる時点で、また活動中にも常にこう言い聞かせてきたことで、就職活動がよい経験になったと振り返ることが出来ます。

将来のビジョンが明確に描けず、周りの友人が次々と活動を本格化する中で足踏みをしていた私。考えているだけでは何も進展しない、と企業を回り、一人でも多くのOB・OGの方とお会いして、方向性を決めていこうと動き出したのは2月に入ってから。この時点では確実に後れを取っていましたが焦ることなく、むしろこのまたとない機会を私自身のステップアップの時として楽しもうと自分を奮い立たせました。

自己分析では長所・短所など客観視することで、今まで気付かなかった新たな一面を発見、試験対策で中学時代の学習を懐かしみながら取り組むなど、一つひとつポジティブに向き合いました。さまざまな業種を回ることで自分の可能性を多方面から見つめ、最終的に社会人として確信が持てるスタートラインを決めることができました。

中でも面接では、毎回考え方や捉え方の違う人事の方に、どのようなアプローチで自分を十分理解してもらえるかということに試行錯誤しつつ取り組み、その都度人事の方からアドバイスをもらうよう心掛けていました。つまり面接を逆に利用していたのです。

失敗もありましたが、その失敗から必ず学び、決して立ち止まりませんでした。一番自分らしさを前面に出し、その自分を受け止めてくれた企業からオファーをいただけたのだと自負しております。

■ 中澤浩介(会計学科、奥村輝夫ゼミ、学習院高等科)

企業と対等の意識を

皆さんは「就職」というものをどのような位置に置いているのでしょうか？まずこのことを真剣に考えてみてください。それが企業と接触し、企業に認めてもらう時に最も大切な事がこれだと実感しています。社会に出る目的、その業種を選ぶ理由、その会社を選択した理由など、就職活動をしていく中で考えなくてはならないこれらの根底にあるものが就職というものの位置付けだと思います。

昨年9月から就職活動を8ヶ月続けて、最終的にキャンノンから内定をいただきました。その間、考えた事、身につけたもの、経験した事は今までの人生でなかった事ばかりでした。何か行動を起こす時に「考えてきた事」が認められたのだと、内定した時に確信しました。活動中を含め、今までの人生の集大成が結果につながったのだと思います。

もし、「ただ就職活動をしなくてはいけないから」という気持ちだけにいるのなら、まず「就職」というものが何なのかを考える事から始めてみましょう。その答えがこれから就職活動という戦いの場に臨んでいく目的になると思います。私が出した答えは、自分という人間を試す場であり自分を知るための期間であるということでした。企業に認められる自分であるのか、人として社会の中で通用するのかを知るための就職活動であると位置付けてきました。

よく言う言葉ですが、企業が皆さんを選ぶと同時に皆さんも企業を選ぶ訳ですから、企業と対等の意識を持って活動をしてください。そうすれば答えは自ずと出てきます。

【ニュース専修10月号8面】